

水戸駅南口地区ふるさとの顔づくり計画・東西公園計画

所在地： 茨城県水戸市
発注者： 地域振興整備公団／(財)都市づくり
パブリックデザインセンター
期間： 1998～1999
計画面積： 約11.2ha
業務概要： 顔づくりのテーマと基本方針の策定
公共空間の整備計画
民有空間の誘導計画

水戸市では、水戸市中心部のJR常磐線水戸駅南口に位置する操作場跡地を含む11.2haの区域でふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業を進めてきた。

■顔づくりのテーマ：水戸の明日の文化を創造する潤い豊かな交流空間

■顔づくりの基本方針：!新しい都市の顔としてのシンボル性の創造、”活力ある活動を支える潤い豊かな交流空間の形成、#新しい都市の骨格による都市構造の再編成、\$駅周辺地区の交通手段の結節と歩行者回遊空間の形成、%地域風土や環境に配慮した持続可能（サステイナブル）な空間づくり、&安全で安心なまちづくり

水戸駅南口地区の南方には桜川が、西方には水戸市のシンボルである千波湖が位置し、駅に隣接する二つの自然の水景は駅南側地区の大きな特徴となっている。そのため、南口地区を「公園口」として位置づけ、豊かな自然環境を有する「緑と水のまち」（公園都市）としての水戸のイメージを南口地区の景観づくりのモチーフとした。桜川を横断して駅前広場に至る幹線道路の両側に、駐輪場の屋上も緑化して東西二つの公園を配した。駅南側地区と駅を一体的に繋ぐ緑の空間として、この公園が公園都市のイメージ創出のための要の空間となる計画である。

